

# Rolf Movement®

## Faculty Perspectives

### *The Art of Yield: An Interview with Hiroyoshi Tahata*

**By Hiroyoshi Tahata, Certified Advanced Rolfer™, Rolf Movement Instructor and Kathy McConnell, Certified Advanced Rolfer, Rolf Movement Practitioner**

*Note from the Editor: In 2016, U.S. workshops on the Art of Yield will be held in Santa Cruz, California: Yield 1 dates are April 13-16 and Yield 2 dates are April 19-22. Contact Carol Agneessens for more information at [carolagneessens@mac.com](mailto:carolagneessens@mac.com).*

Rolf Movement講師 田畑浩良が発展させた「イールドの技法」は、メアリー・ボンドによると「あるがまま今そこにいる、という在り方、および全体性をくり返し観ることに對する探求」と表現されています。私、Kathy McConnellは2015年4月に彼を講師とする「イールドのアート」についてのクラスを受講しました。それ以降、私は彼の新しい考えのさまざまな側面をセッションに組み入れて、結果を出しています。彼の方法では、セッションは施術者自身が自分の身体感覚に意識を向け、その後自分がそこに落ち着き、クライアントと部屋のスペースを包含するように意識を広げることから始まります。この作業はクライアントに実際に触れる前の段階で行われ、変容のための‘場’を創るための技術です。施術者は、「コンディショニング～場の調整」と呼ばれるステップを踏みます。コンディショニングは、身体の様々な場所で、手の甲側で軽く触れ、ほとんどの場合、実質的に体を変化させるための準備になります。その目的は、クライアントをグラウンディングさせ、細胞の足場を提供し、微細な動きの波を生み出すことです。この最初のパートの後、残りの働きかけは同じように進められますが、ワークとしては繊細で費やされる時間は短くなります。一つ一つのタッチの後、施術者はテーブルから離れたところから変化を観察して感覚をトラッキングします。施術者が鋭敏に受容しているときに、クライアントのシステムは、次に働きかけるべき場所がどこなのかについての示唆を与えてくれます。典型的なイールドのセッションでは、身体に実際に触れるよりも、身体から離れて見守る時間が多く費やされます。

私自身のプラクティスでは、変容の場を創り出すという意図を持って、マインドフルにセッションを始めることが、セッションを通して、自分のプレゼンスを豊かに維持する助けになる調子にしてくれることがわかりました。

私が自分の意識を身体、とりわけ丹田に戻し続けている限り、私は場の中でその流れの中に自分を任せることができます。時間はゆっくり進み、私の直感的な知覚が現れます。私の手は、私が何か成し遂げたいという考えが空間に入る前に、すでにどこに行くべきかを知っているようです。私の呼吸、私の身体、そしてとりわけ、クライアントの組織、すべてが素直にしたがっているように感じられます。私の思考や心でどうすべきか戦略を立

てることより、自分の存在を維持することが最優先となっています。クライアントからの感想は、相手やセッションによって異なりますが、非常にポジティブです。彼らは私と同じように軽いタッチがいかに効果的に驚いています。私の長年のクライアントのひとり、次のように表現しています:「あなたがしようとすることをしなければいけないほど、より多く私は感じ取るとれるように感じる。」と。私のプラクティスの本質は、新しい方向に進化していると言えます。そのワークはいま、自分とクライアント、そして両者の関係によって活性化された第3の有機体、場と共に存在しています。

このインタビューはeメールで行われました。英語は彼の母国語ではないため、わかりやすく編集されています。



Hiroyoshi Tahata

Kathy McConnell: あなたが開発した「イールドのアート」のロルフイングへ取り組みとしての特徴を教えてください。

田畑:「イールドのアート」は、生きている組織の動きの反応性を刺激し、深い変容の可能性を持つ、システム全体の統一感のある動きを促進します。施術者のタッチは、身体全体のマインドシステムに働きかけ、非常に深いリラクゼーションを導き、関節空間の解放とコアスペースの広がり容易にします。これは、一般にロルフイングで使用される古典的な筋筋膜解放の強い介入刺激を受け容れられない人々にもストラクチャルインテグレーションを提供できるように発展させました。「イールドのアート」は、やさしく簡潔で正確なタイミングを持つタッチによって効果的な構造変化が達成できることを示しています。それは、プラクティショナー側が正しいと考える類の変化を押しつけるのではなく、クライアント自身の自己調整的知性を利用することによって、変更がより永続的で深くなるという考えに基づいています。



Kathy McConnell

施術者の知覚状態がこのワークの鍵になります。あなたの内側の感覚だけでなく、セッションを通して一貫してクライアントを含むあなたの周りの空間の感覚にも気づいていることが重要です。この状態によってクリアな流れが可能となり、施術者が浮上してきたモティリティ(微細な動き)の波を捉えやすくします。さらに、内側への感覚と同時に周囲に感覚を方向づけることは、本質的なプレゼンスにつながります。

KM:「イールドのアート」はどのように進化しましたか?

田畑:私は圧力に比較的敏感なので、私は自分が触れられたい様に、人に触れる方法を探してきました。私は多くのロルファーが自分のプラクティスの中で肘や拳、または指に過度の圧力を加え、自分自身を傷つけていることを見てきました。私たちは身体の健康に従

事する専門家で、他者に対して、より楽に生活し、活動するための方法を教えています。私がやっていることと私がクライアントを教えていることとの間にも一貫性がなければいけません。もっと自分が楽にワークをする方法を見つけたかったのです。

1998年に認可されたロルファーになったばかりの私は、ある80代の男性のクライアントにRolfing10シリーズを提供しました。耳鳴りが改善されたので、彼は非常に満足していました。しかし、彼は10回のシリーズが終わっても、「完結していない」と感じていたようです。私は彼の追加セッションの希望に応え、プロトタイプのイールドのタッチを使ってポスト10セッションを行いました。私は単に台上に横たわっている彼の身体の下に指を置き、そこで感じられる微細なモティリティと呼ばれる動きに従ったのです。彼は本当にそれタッチを感謝し、私は、意味のある構造変化をもたらしたシリーズの本当の意味での「完結」を感じました。

それからまもなく、別のクライアントが私のところに来ました。彼は重度の便秘に悩まされていた。彼の肌はすごく滑りやすくワックスがついているような感触で、私は標準的な筋筋膜リリースの技法を使って働きかけることを諦めなければならなかったのです。独自のムーブメント的なワークを使って10シリーズを行わざるを得ませんでした。興味深いことに、結局、彼の便秘は解消され、彼の肌はより正常になった。これらのケースによって、皮膚の状態によってか、直接的な筋膜解放による強い働きかけを容認できない等の様々な理由のある人々がオフィスを訪れ、彼等と共にワークすることによって、即興的にその場に応じた対応を余儀なくさせられたわけです。それらのことすべてが、「イールドのアート」の発展のための貴重な材料になったこととなります。

[その他の影響] 2002年の私の上級トレーニングでは、左肩を壊していたので、実習中に自分の肘を使うのは辛いことでした。幸いにも、トレーニングの聴講にきていたムーブメントの講師であるヴィヴィアン・ジェイ(Vivian Jaye)から、Rolf Movementの個人セッションを受ける機会に恵まれました。そのセッションの間、上腕骨の骨端は大きなバキッ!!☆/(x\_x)というサウンドと共に「戻るべきホーム」を見つけ、肩は完全に治りました。それは劇的な変化であり、私は非常に深い方法でムーブメントのパワーと潜在力を体験することができました。その前に、1999年に私のロルフ・ムーブメントトレーニング中にある出来事が起こりました。講師のキャロル・アグネッセンズ(Carol Agneessens)は、とりわけ伸ばしたり圧縮を解くようなやり方とは別のやり方で、やさしく背中と頭に触れました。しばらくすると背骨が自発的に伸びるのを感じました。私がこの種の動きの反応を感じたのは初めてのことでした。この経験は私の好奇心を刺激して、こんな反応がより頻繁に呼び起こせるような方法を見つけたいと思うようになりました。

また、Rolf Movementトレーニングでは、すべての動きの根底にある最初の動きとしてイールドという動きが紹介されました。この新しい基礎的な理解によって、私は細胞生物学における私の経験と構造統合の実践の間の橋渡しになると認識しました。このタッチが、細胞の集合的応答を刺激して、運動性を高めるための足場を提供するように作用するかもしれない、とわかり始めたのです。それが私のロルフィングのキャリアの転換点でした。その講義以来、私は自分のプラクティスの現場でイールドを積極的に試すようになりました。

ました。私は意図的に細胞性の足場を提供する意識でこのタッチを使用すると、クライアントはより簡単に応答することを見出しました。

KM:なぜこの最小限の介入がこのような重要な変化を生み出すと思いますか？

田畑:身体を細胞というジグソーパズルのピースで集まったもののように想像してください。ロルファーとして、私たちは、絵の全体を変えずに1つだけを局所的に変えようとしても、変えられないことを知っています。私たちがワーク中に一つのピースしか目に入らなくなると、身体が全体として呼吸するのを妨げてしまう可能性があります。細胞レベルで細かくワークすることで、パズルの個々の部分を無視することが可能になります。1つの小さな細胞は、すべての細胞に情報を送り、全体と相互に関係し合っています。これは全体としてのまとめ、あるいは私達ロルファーが「パリトニック・ハーモニー※」と呼ぶものをもたらします。細胞はジグソーパズルのピースとは異なり、固定された形状ではなく、常によりダイナミックな反応に対しての応答力があります。

KM:「イールドのアート」は伝統的なロルフィンングパラダイムの中にフィットさせていますか？

田畑:私はStruactural Integration, Rolf Movement、そして10シリーズの中での「イールドのアート」を織り交ぜながら、セッションを実施した前後の写真を比較しました。「イールドのアート」は、クライアントのシステムを使って、次にどこに働きかけるかの決定を下すことで、構造的な変化と統合を新しい方法で引き出す事ができます。私は触れている部分だけを変化させようとするのではなく、セッションの古典的なバウンダリーをそのシステムに働きかけるための窓(そこを通して全体を感じるための)として使用します。私たちは、あなたがどんなロルフィンングセッションでもそうするように、セッションの始めに、最終的にこんな動きが可能になる潜在力を感じた上でそこに近づけるための機能面でのゴールを設定します。しかし、私は変化を創り出すために主に使うツールとして、自分の内的感覚と「場」の意識を最大活用します。私が体に触れるたびに、私はその場所で身体全体の共鳴を感じています。例えば、私が膝に軽く手を置くと、膝を通るすべての隔膜(ダイヤフラム)の共鳴が感じられます。私は、体から手を離してそこから伝わる波を観察するために、身体から離れることで変化が始まります。

KM:あなたがシェアしたいことは他にありますか？

田畑:よく、この働きかけがエネルギーワークであるかどうか質問されます。非常に軽く、しかも接触時間の短いタッチで行う働きかけではありますが、エネルギーワークではないと理解しています。私はムーブメントの働きかけの一つのやり方として「イールドのアート」を捉えています。それは、施術者が、より拡張された広範囲で起こる変化に気がつき、それを捉えられるための余裕を与えてくれます。初期の段階では、圧力に感受性の人々にのみ「イールドのアート」が適用されると思っていましたが、経験を積んで時が経つにつれ、それは誰にとっても適した方法であると思っています。

田畑浩良は、認定アドバンスト・ロルファーであり、Rolf Movement®プラクティショナーです。ロルファーになる前は、(株)林原生化学研究所で生化学研究員として働き、巨核球細胞の分化成熟をよく観察していました。彼の現在の仕事の発展に関連するものは、2011年に日本で修了したSomatic Experiencing®でのトレーニングです。彼は親愛なる妻、息子、1匹の犬、1匹の猫、そしてカメと東京に住んでいます。もっと詳しく調べるには、<https://rolfinger.com>にアクセスしてください。

R.C.S.T.のKathy McConnellは、認定されたアドバンスト・ロルファーとRolf Movement®プラクティショナーです。彼女はまた、バイオダイナミッククレニオセクラル・セラピーと医学気功の認定を受けています。彼女は2000年からサンフランシスコのベイエリアでワークしています。

## 注

1. イールドのアートによる働きかけは、Rolf Movement®の認定トレーニングで教えられている「委ねる」タッチから派生したものです。田畑のイールドのアプローチが他と異なる重要な違いは、施術者の知覚が誘導する「場」を重視している点です。詳細は、2012年6月号のStructural Integrationの記事「Yielding」を参照してください。その記事から:”イールドは、発達段階の最初の動きです。受動的、明け渡すこと、或いは「何もしない」ことと誤解されることがよくありますが、イールドは実際には能動的な動作であり、他のすべての動きの根底にある基本的な動きである。”と書かれています。その文献の中で、彼のプロセスについてより多くのことを読むことができ、彼のクライアントの写真を見ることができます。

## 2. 参考文献

Agneensens, C. and H. Tahata 2012年6月「Yielding」Structural Integration: RolfInstitute®40(1):10-16.

Tahata, H. 2012年6月「イールドを用いたケーススタディ」Structural Integration: RolfInstitute®40(1):31-33

## ※語句説明

イールド：発達段階の最初に起こす動きと考えられ、母胎に対して身を預ける動作。委ねる、預ける動き。

トラッキング：身体の内側に感じるセンセーション、フェルトセンスを受け手が感じるのを手助けするために、観察追跡するテクニック

バリントニック・ハーモニー：ロルフィン界で、二方向性と訳されるが、3次的に空間的広がりとの調和がとれていること。